



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2023～2024 年度 高山中央 RC 会長テーマ

親睦～例会に出席しよう～



世界に希望を生み出そう

◆会長 岩本 正樹 ◆幹事 長瀬 栄二郎 ◆会報委員長 井ノ下 雄志 ◆会報担当 鷲塚 英雄

創立 1991 年 5 月 20 日

<出席報告>

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1343 回	56 名	56 名	44 名	——	78.57%
前々回 1341 回	56 名	56 名	42 名	5 名	83.93%

●点 鐘

●ロータリーソング

それでこそロータリー

●高山中央ロータリークラブ職業倫理基準

●ビジター・ゲストの紹介

NPO 法人さんしょうの会

施設長 道添 健太郎 様

●会長の時間

会長 岩本 正樹

皆さんこんにちは、先日 12 月 2 日土曜日に長瀬幹事と 2 人で D.E.I 推進セミナーに出席してまいりました。今日の会長の時間はそのセミナーについて少しお話をさせて頂きたいと思っております。そのセミナーには特別講演が組まれておりまして、テーマを『多様性社会とサステナビリティ』と題しまして、株式会社beイノベーションという会社の社長をしてみえる喜多結衣さんという方が講演なさいました。パンフレットを見ると若干 26 歳の女性でした。因みにこの講演の出席者は 130 人くらいだったと思っております、講演を視聴された皆さん基本的に会社の社長さんでありますので、26 歳くらいの女性の講演を真面目に聞くのかなと思いつつ最後尾で眺めておりました。すると私の思いに反して結構皆さん真面目に彼女の話に聞き入っておられました。その理由と申しますのは、今回の講演のテーマが『多様性社会とサステナビリティ』ということで、LGBTQ を始めとするあらゆる多様性を認める持続可能な社会を実現するためのヒントや彼女が彼女の会社で実施している活動についての講話で、会社の経営者として多様性を取り入れて経営することは現在において喫緊の課題でもありますので、皆さんロータリーというよりも自分の会社にあてはめながら考えて聞いておられる感じがしました。それともう一つ彼女には大変説得力のある経歴がございまして、実は彼女、生まれた時は男の子で生まれてきてまして、でもず



っと心は女の子で暮らしてきて、ようやく 2 年前に性転換手術を受けて念願の身も心も女の子になったという経歴の持ち主なのです。LGBTQ の分類の中のトランスジェンダーにあたるという事です。そうした彼女が高校時代から経験した様々な仕事に対する経歴や、現在経営している会社のビジネスの事を中心に話してくれましたが、130 人余りの経営者の前での堂々とした講演は、26 歳にして素晴らしい才能の持ち主なんだなと感じました。高校生の頃から自分自身の事や自分の人生を深く考え、こうと決めたら躊躇なく実行に移していく行動力の持ち主で、また性転換をした事で周りの目を気にしないかという質問にも、全くしないと言い切っておりましたが、精神力が強いというか、ポジティブ思考の強い人なんだなと感心を致しました。日本の社会も多様性社会がもっと認められていけば、彼女のような経営者がどんどん増えていくんだろうなと講演を聞いていて感じました。しかし、彼女のような考え方の持ち主でさえも、真に多様性を認めた社会が実現することは非常に難しい事だろうと話しておりました。それはなぜかという世の中は圧倒的に普通の人が多いからです。少数派の LGBTQ の人達に生きやすい環境を整えることは、その分圧倒的多数の普通の人の生きやすい環境に制限を掛けるという事だからです。これから先、持続可能な多様性社会の実現に向けてどのように世の中は変わっていくのでしょうか。みんなに公平な世の中は本当に実現するのでしょうか。

今回の研修は D.E.I 推進セミナーでありますので、彼女の講演の後に 8 人の方が自分のクラブの D.E.I の取り組みについてスピーチをされました。自然とスピーチの内容は女性会員の話がなかったのでありますが、第 2630 地区にはクラブ数が 73 もありますので、中には 4 人に 1 人が女性で会長も女性というクラブもございまして、全体的に女性の存在感がどんどん増しているという印象は受けました。反面私が印象に残ったスピーチがございまして、それは松阪 RC の会長のスピーチでありまして、『松阪 RC は老舗のクラブで考

え方が非常に古いので女性会員を増強することは全く考えていない』と明言され、その後この様なセミナーの中でこの様な発言をする事は本当に心苦しいが、圧倒的多数派の意見も取り入れてこそ真の多様性社会ではないかなどと苦しい言い訳を冗談半分ですべておりました。しかしその話について講評をされた先程の彼女は、その意見はそれで間違っていない、それも多様性の一部、だから難しいと評されました。そのやり取りを聞いた私は、そうか、まだその基本的な点から議論してもいいんだなと正直胸のつかえが降りた感じがいたしました。今日の会長の時間は先日行われたD.E.Iセミナーについてお話させて頂きました。

<幹事報告> 幹事 長瀬 栄二郎

◎国際ロータリー第 2630 地区ガバナー事務所より

・ザ・ロータリアン誌値上げのお知らせ

\$ 12⇒\$ 18

・秋田豪雨災害支援金のお礼と報告

・2024 年ポリオ根絶チャリティーコンサート

ご協力をお願い 2024. 2. 14

・年末年始休暇のお知らせ 12/26～1/8

◎国際ロータリー第 2630 地区ガバナーエレクト事務所より

・年末年始休暇のお知らせ 12/28～1/8

○高山ロータリークラブより

・例会変更のお知らせ

1 月 4 日 (木) ⇒9 日 (火) 17:30～

新年例会 洲さき

1 月 11 日 (木) 休会 定款により

<会報>

・下呂RC ・高山RC

<本日のプログラム>

社会奉仕委員会 委員長

施設の現状の活動内容と問題点について

熊崎 元康



NPO 法人さんしょうの会

施設長 道添 健太郎 様

「法人が設立された経緯」

1989 年、当時この地域では重い障がいがある子どもは社会福祉法人が運営する施設に入所するか、自宅で一日中過ごすしか選択肢がありませんでした。飛騨養護学校(現在の飛騨特別支援学校)に入学した児童の親たちが、12 年後のわが子の行く末を見つめ、「思い障がいがあっても地域の中で心豊かに、人間らしく生活できる場所を作りたい」と、作業所作りの資金集めを始めました。クッキーを作り、1 袋 100 円で販売する姿に共感した保護者や地域の人たち、教員たちが加わり結成されたのが現在の NPO 法人さんしょうの会の前身である「飛騨障がい児教育をよくする会」でした。



その後、名称を「さんしょうの会」と改め NPO 法人を格を取得。寄付金やバザー等で作った資金を基に 2003 年、職員 1 人とボランティア 1 人で小規模作業所「きららハウス」を設立しました。支援費制度を経て障がい者自立支援法ができ、飛騨圏域で初めての多機能型(生活介護・就労継続支援 B 型)障がい福祉サービス事業所として開所しました。

2015 年、重い行動障がいを持ち、卒業後の受け入れ先がなかなか思うように決まらないうちの子どもの親たちが「さんしょうの会」に協力を依頼。設立委員会を立ち上げ、寄付金や募金活動で作った資金を基に、生活介護事業所「第 2 きらら」を開所しました。

2016 年、この頃、地域の重度障がい者が入居できる施設で入居待ちが多くなり、親が亡くなった時に部屋が空いていないと、県外の施設に入居しなければならない状況となりました。支援学校卒業前に親が亡くなり、楽しみにしていた修学旅行や卒業式に参加できなかった子も居ました。そのような状況を受け、「親なき後も、どんなに障害が重くても、住み慣れた地域の中で、安心して暮らせる場所を作りたい」という願いからグループホームを設立を目指し活動を開始しました。

しかし、建設予定地の問題や、話し合いを重ねる中で、現在の「さんしょうの会」の実力では、継続的な人材確保や設備の維持が難しいのではないかという結論に至り、改めて保護者にアンケートを実施したところ、現時点では短期入所でもニーズに応えられ、かつ継続運営も可能であるとの判断から、短期入所事業開所を目指すことになりました。

2018 年、市の助成金や街頭での募金活動、クラウドファンディングでの募金を基に、短期入所事業所「きららの家」を開所しました。

ここで、クラウドファンディングで「きららの家」設立の支援を求める際に、とある飛騨特別支援学校の教員が書いてくれた文章を紹介します。

「いつもすいません」「ありがとうございます」「お世話になります」と言いながら、頭を下げ続けるお母さんの姿が最後にみた姿であり、それがいつものお母さんでした。Mさんのお母さんは、Mさんの高等部への進学を前に突然亡くなりました。

それまで Mさんの生活は、お母さんが中心になり様々な支援を行うことで成り立っていました。「家庭での生活は続けられない」という事で、他県の施設への入所が決まりました。親子で高等部の制服の採寸をしている姿を思い出しながら、制服購入キャンセルの電話をしました。「高等部に行ったら、みんなとディズニーランドへいけるね。」と話すニコニコ笑っていた姿を思い出しながら、見送りました。

他県であっても、施設に入れば衣食住は保障され、安心して生活できます。新しい人雁関係も Mさんなら作れると思います。でも、やっぱり私が Mさんなら…Mさんのお母さんなら…と思うのです。自分で選んで他県の学校へいくのとは違うのです。今まで一緒に居た家族や友達と毎日を過ごす事を望むのは贅沢な事ですか？

飛騨では叶わないことなのでしょうが？

私たちの活動は万人の為のものではありません。何万人もの中の数十人の事なのかもしれません。でも、現状の支援では住み慣れた地域に住み続けられない、思うようにお風呂に入れない…そんな人達が確かに存在するのです。

昨今、SDGs(持続可能な開発目標)という言葉を目や耳にする機会が増えました。SDGs17の目標の中に「すべての人に健康と福祉を」「済み続けられる街づくりを」というものがあります。そして、SDGsの理念は「誰一人取り残さない」です。

「親なき後も、どんなに障がいが高くても、住み慣れた地域の中で、安心して暮らせる場所を作りたい」という私たちの目標と一致することもあり、さんしょうの会も県が進める「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークに入会しました。

私たちの活動に賛同してくれる方、今後 SDGs 推進活動に取り組もうと考えている片、是非とも持続可能な支援をよろしくお願い致します。

<ニコニコ BOX>

さんしょうの会の皆様、ようこそお越し下さいました。当クラブとしても協力したいと考えています。 役員理事一同

親睦活動委員会よりお知らせです。
来週の忘年例会はサンタクロース？準備しております。お楽しみに。また新年家族例会では小さいお子様も楽しめる企画もしております。お孫さんの参加もお待ちしておりますのでよろしくお願い致します 小出 貴博

妻の誕生日にお花をありがとうございました。 熊崎 元康

長らくお休みを頂いておりました高原です。覚えて見える方もいらっしゃると思いますが、今後は心を入れ替え例会出席に勤めますのでお願いします。また結婚記念日、誕生日祝いを頂きお礼申し上げます。 高原 清人

先日はお花をありがとうございました。花は早朝に配達されたのでスタッフ全員知ることとなり家内は(私を含め)スタッフ全員から「Happy Birthday」の祝福を受けて大照れ、大喜び。効果抜群でした。 中田 専太郎

本日会報当番ですが、この後一般質問もあり早退させていただきます。 益田 大輔